

YAKUMO ～狐（妖怪）と
狐（尾獣）～

蟲鳥獸

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

NARUTOの世界に『八雲 藍』の姿と力を得て、転生した人間の物語

第1話

目次

1

第1話

俺、いや私は『八雲やくも 藍らん』の姿と力を得て、転生した。と考えている者だ。

うん、訳が分からん。

でも実際にそうだとしか、考える事が出来ないのだから、仕方が無い。

『八雲 藍』と言うのは、『上海アリス幻楽団』と言う同人サークルが展開する作品に登場するキャラクターの事だ。

種族は『式神』であり、もっと正確にするならば『？九尾の狐に憑く』式神』と言う種族だ。

つまり『九尾の狐』そのものではない、という事だ。

ここまで種族について、説明したのには理由がある。

それは種族が『式神』ではなく、『九尾の狐』であるからだ。

確かに姿と力は『八雲 藍』だが、あれは『八雲やくも 紫むらさき』と言うキャラクターが、『九尾の狐』に『式神』を憑ける事によって生まれたキャラクターなのであって、その『式神』が憑いていないというのであれば、私は『八雲 藍』では無いと言う事なのだ。

つまり何が言いたいのかというと、『八雲 藍』と言うキャラクターは『式神』が憑い

ていないのであるならば、『八雲 藍』と呼ぶ事が出来ない、私は考えているからだ。
・・・まあ、一旦考えるのは止めておくことにしよう、なんであれ今の私は『八雲 藍』の姿と力を得て、こうして存在しているわけだからな。

これは仮定であつて、決定では無い。
もちろん、異論は認めよう。

さて、話が脱線したような気がするのですが、戻すとするが、私は前述の通り転生した。
周囲は森で、目の前に都合よく泉があつて、姿を確認できた。

そして、神様とか悪魔にあつた記憶は無い。

ちなみに前世の死因は、溺死でもしたんだろうと考えている。なぜなら最後の記憶は、冬の海に落つこちて着水な所で終わつてゐるからだ。なんでそんな事になつたのかと問われたら、旅行をしていましたと答えておこう。

そんでもつて、一切の説明が無いこの状況下で、俺は冷静であつた。

なぜなら前世では、そう言う人間であつたからだ。

だから今考えている事は、今の状況下で何が出来るのか？という事と、これからどうするのか？という事であり、まずは前者を調べていきたいと思う。

と言う事で、調べる方法は、軽くジャンプとシャドーボクシング、瞑想をしてみる。
まず軽くジャンプからだ、結構高く跳べた。

感覚で10m位であり、着地もスマートで衝撃無しにフワツと出来た。しゅごい（語彙低下）

続いてシャドーボクシング、と言ってもまあ、前世で見ていた動画を思い出して、それっぽくやってみるだけだ。

ちなみに前世で、余裕のある日には、ちよつとした運動目的でやっていた。

・・・耳が良いのか、それとも肉体が優れているのか、それとも両方なのか、分からないがシュツという風を切る音が聞こえた。しゅごい（語彙ry）